

子どもたちの輝く未来のために！

平成19年4月20日発行

教育センターニュース

ミネルバ

103号

佐賀県教育センター <http://www.saga-ed.jp/>
〒840-0214 佐賀県佐賀市大和町大字川上
TEL 0952-62-5211 FAX 0952-62-6404

特集記事

● 所長あいさつ

● 教育論文・マルチメディア教材

入賞者に聞く

● 355名が教育実践交流会に集う！

● 教育センター知っ得情報



「学校・教職員をサポートする 教育センターを目指して」

所長 吉 田 功



新しい年度がスタートして1カ月、皆さんの学校では新学期の慌ただしさもようやく落ち着き、様々な教育活動が本格化してきたところではないでしょうか。

＜学校の課題解決を支援し、先生方のニーズに応える＞…これは教育センターの変わらぬ使命です。そこで、県内教職員のセンターに対するニーズや受け止め方を把握する目的で、昨年12月、小・中・高・特の4校種から抽出した58校・1625人を対象にアンケート調査を実施しました。詳細な調査結果は、今後の事業改善の基礎データとして活用していきたいと思いますが、ここでは研修講座への回答の一部を紹介してみたいと思います。

- ① 専門研修の過去3年間の研修率：総平均39.7%（小：6割，中：5割，高：3割）
- ② 研修していない第一の理由：校務多忙（教頭・教諭），その他（校長）
- ③ 充実を希望する研修：教諭等は「教科・領域」の充実を希望する割合が高く，校長・教頭は「学級経営，教育相談」等の充実を「教科・領域」と並んで希望している。
- ④ 「教科・領域」の中で充実を希望する内容：「学習指導法」や「教材開発法」が上位を占める。
- ⑤ 受講後の活用：「日々の授業」が8割近くで，養護教諭等では「生徒指導」が多い。

これらをセンターからの願いも込めてまとめると，授業等の年間計画を効果的に立て，少なくとも3年に1度は，「教科・領域」や「学級経営」等の講座を受講し，児童生徒にとってより良い学習・生徒指導を実践していただきたい，ということになるのでしょうか。

昨年12月に教育基本法が改正され，第9条において研修（研究と修養）の重要性が定められました。教育センターとしても研修内容の充実を図ることが前提となりますので，現在，本庁や教育事務所と連携しながら，研修体系の見直しに取り組んでいます。今後も，先生方の期待や要望に応える研修を作り上げたいと考えています。



「ミネルバ」はローマ神話に由来する学問・知恵を司る女神の名前です。女神の連れているフクロウは知恵の象徴で，「黄昏に飛び立つ」と言われています。時代が転換していく状況の中で，叡智をもって飛躍し，そこから新しい時代を切り開いていこうという願いが込められています。



教育論文・マルチメディア教材入賞者が語る

平成19年1月16日(火)、平成18年度教育論文・マルチメディア教材の表彰式を行いました。右は入賞者の先生方です。今回は教育論文部門(個人研究の部)、マルチメディア教材部門で優秀賞を受賞された先生方の紹介をします。入賞結果の詳細はミネルバ102号でお知らせしています。なお、入賞作品は教育センターHPにアップしていますのでご覧ください。



教育論文個人研究の部優秀賞 森 真理子教諭・外尾 智子教諭・池田 直人教諭
中原 奈美教諭・福田 哲也教諭(嬉野市立嬉野小学校)

『一人一人に必要な基礎基本を伸ばす作文指導 一習熟度別コース設定を取り入れた指導を通して一』

今回の研究は、嬉野小学校3年生グループで取り組みました。

森先生 私たち、嬉野小学校3年生グループの実践をみなさんに紹介するチャンス을いただき、とてもうれしく思っています。学級の枠を越えて、子どもたちに作文力を付けようとする、私たちの熱意が伝わってよかったと思います。

池田先生 グループ研究の中核となるコース学習を推進することができました。指導者としての自分の特徴を発揮できるような単元を計画してくださった4名の先生方に感謝しています。

外尾先生 実践に取り組んでいるときには苦しい思いもしましたが、4名の先

生方とともに単元を作り上げたことがとてもよい経験になりました。また、作文指導の単元で指導者グループの劇を行いました。そこで演出させていただいたことも財産となりました。

中原先生 TT担当で、3年生と算数の授業をしています。現場に復帰したばかりだったので、子どもたちの姿が見えないまま計画を立てていたとき、一番不安でした。しかし、書き慣れなかった子どもたちが書く楽しさを感じてくれたとき、私自身も感動しました。

福田先生 これまでも特別支援教育コーディネーターとしてかわってきました。今回の取り組みでは、TTによる少人数指導という指導形態を取り入れたことで、作文の力だけでなくコミュニケーションへの意欲も高めることができました。これからは子どもたちの『困り感』をやわらげることができるよう、学校生活全体の中で支援していきたいと思っています。



教育論文個人研究の部優秀賞 野崎 征久教諭(唐津市立切木中学校)
『主体的に探究する力を高め、確かな学力を育てる理科学習指導法の研究
一発展的な学習の位置付けを通して一』

最近、「理科離れ」という言葉をよく耳にします。生徒たちを見るかぎり、観察・実験に興味をもち、積極的に授業に臨んでいるようにも思えます。アンケートでも、「理科の授業で、観察・実験が一番楽しみにしている」という結果が出ています。

反面、観察・実験結果から自然現象の法則性について自分で考え、その法則性を導き出すことが苦手な生徒がやや多いようにも感じます。そこで、生徒が主体的に観察・実験に取り組み、科学的に分かる喜びを体験させたい、と考えたのが今回の研究の動機でした。

研究を始めた当初、「どうすれば観察・実験において問題意識を高められるか」「生徒一人一人の疑問を解決する観察・実験の工夫はどうすればよいか」等の壁にも直面することになりました。

そのような悩みの解決の糸口として、観察・実験の結果をいかにして科学的な理解へとつなげるかという課題解決に向けて、授業の中に説明活動を取り入れました。観察・実験の結果から導き出されたことを、一生懸命分かりやすく説明しようとする生徒の姿を見て、科学的な思考力の高まりを実感しました。

これからは、生徒の観察・実験の意欲を高め、出た結果を科学的な法則へと導く手立てを工夫していきたいと思っています。



マルチメディア教材部門優秀賞 小西 徹教諭(神崎市立千代田西部小学校)
『練習ランド』

『練習ランド』は、子どもたちが家庭学習や単元学習後のドリル学習をする際に活用できます。昨年度受賞したものに、ローマ字入力練習機能等を付け加え、バージョンアップを図りました。問題にアニメーションを使ったり、ボタンクリックで画面が切り替わったり、子どもが自分で操作して学習できるところがポイントです。

先日、3年生の女の子が、「家でやってみました。ちょっとおもしろかったよ。」と声を掛けてくれたことに、喜びと充実感を覚えました。

楽しくて勉強に役立つような教材作りに努力することは、教師としての大切な仕事の1つだと思っています。

今後は、算数に加えて、理科や社会科など教科の幅を広げた教材を作ろうと考えています。

昨年度のWeb教材は、教育センターホームページに掲載されていますので、ぜひアクセスしてみてください。今年度の教材については、内容を拡充したため容量が大きくなり、技術的な問題から残念ながら掲載できませんでしたが、興味のある先生は、ご連絡ください。





355名が教育実践交流会に集う！

充実した分科会に参会者も納得！！



【長期研修生によるポスターセッション】様々な教科・領域の発表から学ぶことができました。

【研究協力校の発表】校内研究推進のための具体的なヒントをいただきました。



【佐賀大学との連携】総合的な学習の時間で育てる思考力とはどういうものかよく分かりました。



【国語(中高)】PISA型の学力観とはどういうものかが分かりました。

【社会科(小学校)】実践を基に社会科の最新情報を交えた話でとても参考になりました。



【生活科】失敗談を基にした所員の話が、具体的によく分かりました。



【理科】ドキドキわくわく大満足でした。授業に生かせるネタを提供していただき感謝しています。

【道徳(情報モラル)】1年次の課題を受け、道徳と情報の目的を分けたところに意義を感じます。



【教育相談】プチカウンセリングに惹かれて参加しました。とても有意義でした。



【小学校英語活動】これからの英語活動で目指すべき方向が少し見えてきました。

【食育】食育の課題が明確になりました。小・中・高のつながりが見えました。



【図工・美術科】様々な技法が参考になりました。明日からの実践に使えるものばかりでした。

去る2月15日(木)、第8回佐賀県教育センター「教育実践交流会」を開催しました。今回は、全部で28の分科会やワークショップを設けました。その様子の一部をご紹介します。吹き出し内は、参会された先生方の感想です。**来年度の教育実践交流会は、2月14日(木)に開催予定**です。更なる充実を図りますので、ぜひおいでください。



教育講演会のお知らせ

「温かな学級経営のポイントー教師に求められるソーシャル・スキルー」

講師：都留文科大学大学院教授 河村 茂雄 先生



温かな教育力がある学級をつくることができれば、いじめをなくすことができるとともに、落ち着いた学習環境の中で基本的な学力も身に付けやすくなります。

子どもとの対人関係について悩みの多い私たち教職員にとって、必要なソーシャル・スキルを身に付ける上で、大きな示唆となる内容です。ぜひ、ご参加ください。

○日時 平成19年5月22日(火) 14:00～16:00 (受付13:30～)

○会場 佐賀市文化会館 中ホール

※教育センターへ「研修講座申込システム」で申し込んでください。締切は5月8日(火)です。

公開講座のお知らせ

公開講座は、受講者以外の方も聴講できるものです。午後半日(13:00～16:30)の開催となっています。開設講座は、以下の通りです。「研修講座申込システム」で申し込んでください。

1期…5月25日(金)締切

◆ LD, ADHD等の気になる子どもの理解と支援講座 6月22日(金)

講師：愛媛大学教育学部
准教授 吉松 靖文 先生



◆ 中学校英語科・高校英語科講座

6月28日(木)
講師：筑波大学附属駒場中・高等学校
教諭 久保野 雅史 先生

2期…7月6日(金)締切

◆ 小・中学校総合的な学習の時間講座

8月8日(水)
講師：鳴門教育大学学校教育学部
教授 村川 雅弘 先生

◆ 小学校英語活動講座

8月10日(金)
講師：昭和女子大学附属昭和小学校
教頭 小泉 清裕 先生

◆ 小学校特別活動・中学校特別活動講座

8月17日(金)
講師：静岡県沼津市立第四中学校
校長 工藤 榮一 先生

◆ 小学校算数科講座

8月20日(月)
講師：筑波大学附属小学校
副校長 坪田 耕三 先生

◆ 自閉症児の理解と指導講座

8月28日(火)
講師：東京学芸大学教育学部
准教授 藤野 博 先生

◆ 中学校技術・家庭科講座

9月27日(木)
講師：京都教育大学教育学部
教授 安東 茂樹 先生



教育センターでは教科・領域等に関する研修援助を行っています！

現場の先生方の研修のお手伝いをする研修援助には、次の2つの方法があります。

1 所内研修援助

教育センター所員が、来所された先生方に資料提供や助言などを行います。

2 所外研修援助

教育センター所員が、各学校や研究会等に出向いて、実践発表などを行います。

※詳しくは教育課程支援担当まで、気軽にお電話ください。TEL(0952)62-5211(内線371)



<編集後記>



いよいよ新しい学年がスタートしました。新年度を迎え、子どもたちも期待に胸をふくらませていることでしょう。教育センターでは、今年度も多彩な研修講座と充実したホームページの両面から、現場の先生方をバックアップします！